

第11期第7回川崎市男女平等推進審議会摘録

日時	令和6（2024）年4月17日（水）13：15～15：15
場所	川崎市役所会議室（委員はテレビ会議で参加）
出席者	《委員》村尾会長、板井副会長、新井委員、岡田委員、岡本委員、戒能委員、北野委員、嶋田委員、橋本委員、樋口委員、松本委員、森委員（12名） ＊欠席者 岩崎委員（1名） 《事務局》人権・男女共同参画室 長沼室長、押田担当課長、高山担当係長、田代担当係長、高橋専門調査員 出席者 合計 17名
傍聴者	0名
議題	（1） 第5期川崎市男女平等推進行動計画の令和5年度進捗状況及び評価に係るヒアリングについて （2） その他

議題（1） 第5期川崎市男女平等推進行動計画の令和5年度進捗状況及び評価に係るヒアリングについて

《事務局から、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、資料6の説明》

（村尾会長）事務局からの説明について、何か御質問等はあるか。

（板井副会長）資料3の事業21について、審議会等委員に占める女性の割合が40％となるように目指すという目標があり、令和5年度のこども未来局の数値は39.9％でAとなっているが、未達成なのでBではないか。

（高山担当係長）ありがとうございます。御指摘を踏まえ修正する。

（板井副会長）企画調整課の部署名がSDGs国際連携推進担当になっているが、具体的にはどのようなことを行う部署なのか。

（高山担当係長）部署としては川崎市の総務企画局の中にあり、市全体のSDGsを推進することになっている。もともと企画調整課という市全体の全体の事業調整をする部署にあったものが、SDGsについて特化する形で部署編成された。

（板井副会長）ジェンダー、教育、環境などすべてを含めて、全体的に取り組む部署となるのか。

（高橋専門調査員）市のSDGsの計画に基づいて、横断的に取り組む部署となる。

（村尾会長）ヒアリング項目について各委員から御意見を伺いたい。

（岡田委員）個人的には年始の地震の影響、また昨年度候補に挙がりながら採用されなかったのも、ぜひ防災をヒアリング項目として入れてほしい。

（森委員）岡田委員と同じく、防災については重要だと感じており、台湾の地震で分かったように日本の取組は結構遅れている。台湾は短時間で個別テントを張るなど対応が早かったが、日本は民間団体とうまく連携ができていない。その辺りを川崎市はどう考えているのか、ヒアリングしたい。

(村尾会長) テントは男女別にも大きな影響があることなので、ぜひ私も聞きたい。

(高橋専門調査員) 2015年に地域防災をテーマにヒアリングをした際は、危機管理本部と中原区役所の2部署に行った。ヒアリングは2時間と限られているので、今回も防災をテーマにするのであれば、大きく3つの選択肢がある。①防災ともう一つ違うテーマを選んで、防災に関しては危機管理本部か区役所のどちらか1部署をお呼びし、もう一つのテーマで1部署、併せて2部署を対象にする、②防災とは違うテーマ2つで2部署を対象にする、③防災で危機管理本部と区役所の2部署を呼んで、かつ、もう一つテーマを選んで1部署をお呼びし、合計で3部署にヒアリングを行う。ただ③は時間が限られ、それぞれのテーマを深く聞くことが難しいので、できれば①か②が良いのではないかと思います。

(村尾会長) 防災以外のテーマに、関心のある委員は御発言をお願いします。

(樋口委員) 防災はぜひヒアリングしてみたい。もう一つことも未来局関連で何かテーマにするのがよいのではないか。防災に関しては、私自身地域で防災の役員の経験があるが、女性の視点が入っていないことを感じた。ぜひヒアリングでも男女共同参画の視点を取り入れていただきたい。

(村尾会長) この審議会のヒアリングでは、多様な部局をお呼びしているが、各委員が御自身の経験や知識も踏まえながら、男女共同参画の視点で新しい切り口をお示しすることが重要であると考えている。

(戒能委員) 防災については、ぜひ具体的な御意見を各委員から出して、市としてどのように対応できるかなど前向きな議論ができれば、担当課としてもよいのではないか。個人的には、妊娠・出産に関する問題をぜひ取り上げて頂きたい。妊娠・出産の事業を見ると、不妊や両親学級など産むことが前提となっているが、産まない選択をした場合に、最近は大きな社会問題として孤立出産が顕在化している。また若年層だけではなく、一定の年齢に達した方でも経済的な問題などで必ずしも育てられない問題を抱えており、それが児童虐待に繋がってしまうことがある。こうした点を踏まえてヒアリングできるとよい。

(村尾会長) 防災以外のテーマとして、産まないという選択も含めた妊娠・出産についてご提案があった。女性の生涯を通じた健康支援とも関連がある。ほかにも関心のあるテーマがあれば御発言をお願いします。

(松本委員) 防災に関しては、避難所における生理用品の不足や、女性特有のニーズに配慮されていないなど、多くの声が上がっている。また仮設住宅などの場で女性が炊き出しといった家事労働に類した労働を担っているという声も聞くので、災害発生時にどのような対処ができるのか、男女共同参画の視点の視点で今のうちから考えていくことは非常に重要である。また2つ目のテーマについて、子どもに対する虐待、困難な場面に立たされる両親から来る虐待の問題について個人的に関心は高く、特に最近、共同親権に関する法改正が進んでいるが、それによって生じる問題も懸念しており、子どもの権利や利益を守るために男女共同参画の視点から親ができることや、どのような支援ができるのか掘り下げていければと思っている。

(橋本委員) 防災をテーマにすることに賛成である。防災計画や避難所も重要な視点だが、消防や防災の分野で実際に働く人の男女平等の状況も気になる。最近は女性が責任者になることも出てきているが、男性社会というイメージ大きく、働く人の状況と防災の計画を立てる視点の両方が重要ではないか。2つ目のテーマは迷うところがある。虐待は範囲としても広く、子どもを産まなくてはいけないといった強制的な価値観も関わっていると感じており、女性の問題にされがちだが、子どもを育てる社会や生活面、働く問題にも関わる大きな分野だと思うので、どのように取り上げるのかは迷いがある。健康よりは妊娠・出産のほうがよいと思うが、私の中でまだしっくりきていないところがある。

(嶋田委員) 防災は大事なテーマだと思うので、防災に重点を置くのがよいのではないかと個人的に感じている。

(北野委員) 防災をテーマにヒアリングをしたのが10年近く前なので、今年は防災を重点的に扱った方がよいのではないか。川崎市は人口も増えているので、出産等に係る支援等も非常に重要なテーマである。

(新井委員) 防災は大事なテーマであると思う。もう一つについて、教育員会に学校の校則について男女平等の視点でヒアリングしてみたいと感じた。

(村尾会長) 校則については今まで論点になっていなかった新しい切り口である。この点について他の委員から御意見あればお願いします。

(樋口委員) 校則かなのかはわからないが、教育に男女共同参画の視点を取り入れていくことはすごく重要ではないか。虐待についても、男女共同参画の考え方についても、子どもたちの教育に取り入れていくことはできないかと感じている。

(村尾会長) 資料を見ると2016年にキャリア在り方生き方教育に関して、教育委員会の教育改革推進担当にヒアリングを行っている。その後、2021年に若年層を対象にした暴力防止の啓発について教育委員会の人権・多文化共生教育担当にヒアリングをしているが、学校のルールなどは扱っていない。

(高橋専門調査員) 虐待について該当する事業は行動計画の84になる。ただ委員の御関心は若年妊娠とも絡んでおり、若年妊娠という切り口だと、妊娠・出産SOS相談事業があり、こちらは2020年に一度ヒアリングを行っている。このほか、事業125に母子健康手帳の交付を通じた妊産婦支援が位置付けられている。したがって虐待に関しては、事業84に基づくか、妊娠・出産SOS相談事業に再度焦点を当てるか、もしくは事業125に基づいて妊産婦等への健康支援という大きな切り口で聞くかという案があるかと思う。校則に関して、そのものを扱う事業は計画上ないため、施策3の就学前教育・学校教育における男女共同参画に関する教育の推進の中で、教育委員会教育政策室に校則も含めた学校における男女共同参画の推進度合いを聞くという案があるかと思う。ただ、校則より若干広げて聞くという形ではないとヒアリングでは少し厳しいのではないかな。

(村尾会長) 事業の中に校則が入っているわけではないので、ダイレクトに聞くのは難しそうだが、新井委員どのお考えになるか。

(新井委員) 少し広げて聞くということで承知した。学校教育の現場に近い話が聞けるとよいのではないかな。

(高橋専門調査員) 今複数のテーマのご提案を頂いた。防災でいくのか、防災ともう一つのテーマを組み合わせるか、組み合わせるとしたら虐待か、妊産婦支援か、学校教育にするかが現在の選択肢となっている。

(松本委員) 新井委員の校則の切り口からヒアリングをするという御提案について、何か問題意識があればぜひ伺いたい。私自身、小学校の時から男女共同参画の教育が学校教育の場で浸透することは非常に重要だと思っているので、ぜひ教育現場の意識は聞いてみたい。

(新井委員) 例えば、昨年くらいから女子の制服がスカートだけではなくズボンも可能になったりしているが、校則は男女が別の方がよいといったものや、男女関係ない校則があり、区の協議会の際も最近校則に関する議論が多い。校長先生もそうした会議に参加しているが、学校によって誰が決めるかははっきりしていない。男女平等の視点で校則をどのように捉えているのか、今後どのようにしていくのかななどを聞いてみたいと感じている。

(板井副会長) 私も教育問題には関心がある。先ほど御指摘あったように制服の選択肢は広がっているが、おしゃれは駄目だという校則も依然として残っており、子どもの自由な選択肢を伸ばす方向が進んでいくとよい。ただ、前半が災害をテーマにすると、後半に教育を持ってくるのは関連性が弱い気がする。女性の健康や妊産婦の問題は災害時でも問題になるため、今回はそちらを取り上げ、教育におけるジェンダー視点は翌年度扱うのもよいのではないかな。

(村尾会長) 確かにテーマの相性を考えると、教育は来年以降という検討をしてもよいかもしれない。では案としては災害にヒアリングの重点を置くか、それとも災害以外にもう一つ選び、虐待か妊娠出産など関連のあるテーマを選ぶか、という運びでよいかな。災害だけを今回は扱うべきだと考える方は挙手をお願いします。

(4名挙手)

(村尾会長) 災害と他のテーマを組み合わせる方がよいと思われる方は挙手をお願いします。

(7名挙手)

(村尾会長) ではテーマは二つにすることで進める。続いて、子どもの虐待に重点を置くか、女性の

妊娠・出産、リプロダクティブ・ヘルス／ライツに重点を置かお諮りしたい。

（樋口委員）虐待に関して女の子への虐待という観点となると、孤立出産や若年出産、シングルマザーや外国人であることも関連すると思うが、少し事業としては狭まってしまうのではないかと懸念している。

（高橋専門調査員）事業８４については、児童相談所の子どもに対する性的虐待への支援となるので、性暴力が切り口とはなるが、この事業を取っ掛かりに児童虐待についてお伺いすることはできると思う。妊娠・出産に関して、先ほど妊娠・出産ＳＯＳ相談事業を挙げたが、より包括的にやるのであれば事業１２５がよいのではないかと。こちらは児童家庭支援・虐待対策室の母子保健が担当となり、母子健康手帳の交付を通じた妊産婦等への心身の健康保持として、両親学級や望まない妊娠の問題、特定妊婦への対応、若年や今後課題等を抱えそうな女性の方に対する支援も推進している。したがって、事業８４か１２５の二択で御検討頂くのがよいのではないかと思う。

（戒能委員）虐待は大きな問題であり、先ほどの学校における男女平等の問題と同様に別個に取り上げたほうがよいと感じている。事業１２５は広範な政策と説明があったが、虐待との関連もあり、やはりそのあたりからアプローチして、今回はリプロダクティブの問題を扱うのがよいのではないかと。一度ヒアリングでも取り上げたが、その後の事例の集積などもあるかと思う。また時事的な問題でもある。

（村尾会長）では事業１２５がよいと思われる方は挙手をお願いします。

（８名挙手）

（村尾会長）事業８４がよいと思われる方は挙手をお願いします。

（３名挙手）

（村尾会長）では、今年は防災と、事業１２５に焦点を当ててリプロダクティブの問題、男女共同参画と妊娠・出産の問題を取り上げていくこととする。次回の審議会で具体的な質問項目を検討していく。

（樋口委員）事業１２５に関して、児童家庭支援・虐待対策室母子保健担当となっており、質問の切り口として、妊娠に関わる事項として虐待について関連事項として聞くことは可能か。

（高橋専門調査員）質問項目次第かと思う。ヒアリングの流れで虐待についても言及があった場合、質疑応答の中で深掘りしていくことはできるのではないかと。部署としては母子保健をはじめ児童相談所も束ねる大きな部署となるため、担当者がどこまで部署の全事業について答えられるかは未定だが、市として虐待や妊産婦支援も関連する分野として推進している側面はあるかと思う。

（村尾会長）他に質問はあるか。

（高橋専門調査員）ヒアリングの方向性として、防災は取組に男女共同参画の視点が入っているという視点からヒアリングし、女性や多様な方が持つ特別なニーズへの配慮が検討されているのかを評価していく流れとなるか。一方で母子保健はおそらく女性の脆弱性にまさに対応している事業であり、事業自体があるやその方針は評価しながら、より充実等を図ってほしいといった方向性となる、という認識となるか。

（村尾会長）その方向性で大丈夫であると思う。

（戒能委員）母子保健に関しては、現実には起きている問題に対して、川崎市がきちんとフォローして施策の中に組み込んでいるか、という問題提起も含んでいるかと思う。今提案あった方向性に賛成である。

（村尾会長）防災に関しては、危機管理本部と区役所の危機管理担当をお呼びする案がでていますが、その方向性でよいのか。昨年度も労働雇用部の二つの事業に一枠で来ていただいたので、ヒアリングとして可能でないかと思うが、他の委員から御意見をお願いします。

（松本委員）年次報告を見ると、事業１０４で各区役所の評価がおおむねＢだが、高津区役所だけＣとなっており、他の区との違いや実情があるのか、高津区役所に来て頂くのがよいのではないかと。

（橋本委員）私も同じ点に関心を持った。Ｃをつけるということは課題認識があるのではないかとそれがどのように課題として感じられているのか、具体的に聞ける機会になるとよい。

（北野委員）危機管理本部は、今回の震災に関して職員派遣を行っていると思うが、その実態も聞けるので

あれば、今後川崎に震災があった際に、男女共同参画の観点からどういうことができるかという点にも繋がるのではないかと。

(森委員) 健康福祉関係の会議でも石川県に職員派遣を行ったと聞いており、多様な部署にわたっているのではないかと。そのあたりを事務局に確認した方がよい。

(押田担当課長) 能登地震への派遣については、危機管理本部をはじめ、保健師、看護師、病院関係の職員や消防、上下水道局の職員が現地に行っている。また避難所の運営は全局で横断的に職員が交代で行っており、本室の高山係長、田代係長も4泊5日で能登派遣を経験している。

(村尾会長) では危機管理本部から能登地震での経験なども伺えるという理解でよいか。危機管理本部が派遣職員などの知見も集積されているのか。

(高橋専門調査員) 審議会のヒアリングの目的は何かという点も関わる。能登派遣の話は、私も高山係長、田代係長から聞いて大変興味深いですが、川崎市自体が被災したわけではない。危機管理本部をお呼びするのであれば、防災会議とか地域防災計画を中心に、能登の地震も受けて男女共同参画の視点についてどう認識しているのか軸に聞いたほうがよいのではないかと。

(村尾会長) ヒアリング質問を考えるうえで、高山係長や田代係長の御経験を審議会で共有いただけたら、重要な情報になるのではないかと。

(高山担当係長) 川崎市職員が避難所運営への派遣について、市職員の役割は、物資の供給などについて避難所運営をサポートする形になっており、避難所自体の運営は地域の方々を中心に自主的にされている。したがって、派遣では避難所となっている体育館の、着替えや乳幼児がいる方へ配慮する区画などをみだりに市の職員が立ち入らない形で支援していたため、他の市の職員も含め避難所運営が男女共同参画の視点で、配慮されているかわからない。

(村尾会長) 共有をありがとうございます。私自身としては、派遣された職員の男女比なども偏りがあるのであれば、そうした事実も把握することで、災害時の支援動員や計画にも参考になるのかと感じている。

(板井副会長) 先ほど高津区の例が挙げたが、去年の実績を見ると麻生区が避難所開設訓練においてどんな、様々な視点を生かしながら課題や役割の確認を行ったなど、単なる呼びかけだけではなく実践的な課題に取り組もうとしている気配があるので、そうした取組を進めている部署の話聞くのもよいかもしれない。

(村尾会長) 確かに進めている部署の取組を聞いて、そこから学ぶ点も多くあるだろう。

(高橋専門調査員) 防災に関するヒアリングについて、区役所の選定については事務局で各区の状況を調べたうえで、次回御提案させて頂く形でもよいかと。

(村尾会長) それでよい。

(高橋専門調査員) なお危機管理本部も同席したうえで、区役所にヒアリングを行うことになるか。

(村尾会長) 危機管理本部にはもちろん来て頂く前提で、もう一つ区役所にも参加頂く形だと理解している。では今年度のヒアリングは、防災と母子保健ということで、次回の審議会で具体的な質問事項を検討する。

議題（２）その他

《事務局から、資料 7 の説明》

(前回の摘録は確定、本日の摘録は後ほど委員に送付)

(次回の審議会は6月12日（水）13時15分から15時15分)

以上